

談話 九州電力玄海原発4号機の再稼働について

11月1日に再起動された九州電力玄海原発4号機は翌2日に発電を再開し、本日11月4日、通常運転に戻した。九州電力による3.11以降初の日本における原発再稼働である。この間、脱原発社会の創造に向けてあらゆる団体・個人と手をつなぎ合って運動を担い創ってきた出版労連・原発問題プロジェクト委員会としては痛苦的な思いと怒りで一杯である。

玄海原発の再稼働に関して「地元の詳細は、ある意味必要ない」「このまま止めておく理由はない」とまで言い放った九州電力経営。佐賀県の古川知事、玄海町の岸本町長は相次いで「十分審査が行われた」「一定の納得をした」と再稼働を容認した。あまつさえ枝野経産相は11月1日に「電力会社が決めること」と再稼働を容認したのだ。古川知事と九州電力による再稼働へ向けた「やらせ」問題は一つ解決していないにもかかわらず、である。

玄海原発の周辺で生活している住民の不安や意思をまったく無視して行った九州電力の所業は決して許されるものではない。また、史上最大の核惨事と言われたチェルノブイリを上回る規模となった東京電力福島第一原発事故後の政府や東京電力による情報操作・隠蔽体質に、不安と不信感を怒りとともに抱いている多くの国民の「原発再稼働反対、原発依存からの脱却」の声を踏みにじる行為でもある。

東京電力福島第一原発事故がもたらした、悲劇と被害の大きさと、圧倒的な労働者・国民の「脱原発を！」の高まりに一瞬のひるみを見せた財界を中心とする「原発ペンタゴン（政・官・財と御用学者・御用マスコミ）」ではあったが、虎視眈々と再稼働すなわち原発再推進を狙っていた。9月2日の野田政権樹立を機に再稼働にグッと踏みだした。その魂は「命より経済」である。反省のない次の行動は、悲劇をもたらす。このことを受け入れない為政者と電力会社経営には脱原発を高々掲げた闘いを広げることをもって立ち向かう。

出版労連・原発問題プロジェクト委員会は、原発再稼働に反対し、すべての原発の廃棄を求める。その一点で考えを同じくする多くの労働者・国民とともにたたかう。日本社会の未来である現在のこどもの命を守る闘いを引き受ける。過去と現在、そして未来を失わないために！

再稼働した九州電力玄海原発4号機はただちに停止すべきである。

以上

2011年11月4日

日本出版労働組合連合会
原発問題プロジェクト委員会
委員長 平川 修一